

令和6年度 研究概要

|                              |   |
|------------------------------|---|
| <p>所属名</p> <p>情報・視聴覚センター</p> | <p>研究会議名</p> <p>個別最適な学び（GIGA 端末活用）研究会議</p>  |
| <p>研究主題</p>                  | <p>教育データを利活用し自ら学習を調整する児童生徒の育成<br/>—利活用を見据えた学習記録の蓄積を通して—</p>   |
| <p>資質・能力<br/>育成を目指す</p>      | <p>教育データを利活用し自ら学習を調整する力</p>   |
| <p>研究内容</p>                  | <p>令和3年1月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～では、ICTを活用して自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、資質・能力の育成を着実に進めることが示された。しかし、令和6年度の全国学力・学習状況調査の学校質問紙におけるICT機器の活用場面の調査結果では、本市の児童生徒がICT機器を授業で活用する頻度は多い一方で、児童生徒同士がやり取りする場面や児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面での活用は課題があることが分かった。これらの場面は、GIGA 端末を活用し児童生徒が個別最適又は協働的に学んでいる場面であると考え、本研究会議ではこれらの場面での端末活用について検討することとした。</p> <p>また、令和4年1月にデジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省が示した「教育データ利活用ロードマップ」では、目指す姿として、「誰一人取り残されない、個別最適な学びと協働的な学びの実現」を掲げ、「全ての子どもたちの力を最大限に引き出すことに資するよう、教育データの効果的な利活用を促進する必要がある」とした。</p> <p>本市では「かわさき GIGA スクール構想」ステップ3のキーワードの1つに「データの利活用」をあげ、「子ども自身がデータを活用して自分の課題を見つけ、振り返って次につなげるといった学びを自己調整すること」が大切だとしている。</p> <p>そこで本研究会議では、教育データの中でも、児童生徒の学習活動での成果物の記録である学習記録に焦点を当て、その効果的な活用について検討した。まず、児童生徒に単元（題材）計画と学習記録の利活用計画を共有し、見通しを持った学習記録の蓄積と利活用をさせることで、GIGA 端末が自ら学習を調整して学ぶことに寄与するのではないかと考えた。次に、自ら学習を調整する力を高めるためには児童生徒に学習過程を意識させることが重要と考えた。そこで、学習過程の中で GIGA 端末を活用し、過程のどの部分においても即時に自分や他者の学びにアクセスできる環境を整えることで、児童生徒が自分や他者の学習記録をどのように利活用するのかを研究することにした。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、GIGA 端末のどのような活用が児童生徒の学びに寄与するのかを明らかにしたい。</p> |